◆授業のポイント◆

- 「対話」を通して，課題を解決していく授業の工夫
- 自分の知識や経験と関連づけた意見を交流し，考えを深めていく授業の工夫

国語科学習指導案

学　級　3年2組（男子 18 名女子 17 名計 35 名）
場　所　3 年 2 組 教 室 （3 年 校 舎 1 階）
授業者　教　諭　　重　丸　　功 志 郎

1　単　　元　「高瀬舟」の登場人物の生き方を批評し，人生について考えを深めよう
　　教　　材　「高瀬舟」（三省堂3年）

2　単元の目標

⑴　物語について感想をもち，交流して自分の考えに生かそうとする。（関心・意欲・態度）
⑵　場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，内容の理解に役立てることができる。（読むこと イ）
⑶　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつことができる。（読むこと エ）
⑷　時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに，敬語を社会生活の中で適切に使うことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ア））

3　本単元における言語活動

「高瀬舟」の登場人物の生き方について批評し合い，人生について考えをまとめる（関連：言語活動例ア）

4　言語活動設定の理由

⑴　教材観

「高瀬舟」とは，京都の罪人を大阪まで送るための舟である。江戸後期の春，高瀬舟に，弟を殺した喜助という男が乗せられた。護送役の同心である庄兵衛は，喜助が罪人らしからぬ晴れやかな顔をしている事を不思議に思い，その訳を尋ねるという設定である。

語り手は「庄兵衛」に寄り添い，「喜助」の「足るを知る」という生き方，それに自分を比較して「幸せな生き方とは何か？」という疑問をもつ。また，弟を苦しみから救ったために，オオトリテエから「弟殺し」と裁かれた「喜助」の罪，裁きに対する疑問が描かれている。これらの疑問について考え，解決していく力は，これからのさまざまな社会を生きる中学3年生には，必要な資質である。

また，登場人物の生き方を学び，交流することで，自らの考えをより深めるにふさわしい教材である。

⑵　生徒の実態

本学年の生徒は，2年時に「走れメロス」において，「メロスは自分自身のために走っている」というテーマで，「自分の考え」と，「根拠となる叙述」，それを結びつける「理由」を意識し，討論することで作品の内容を深める活動を行った。

また，詩教材「わたしを束ねないで」では，「立志にふさわしい詩を選ぼう」という単元を設定し，「課題を解決するための対話」と「目的を共有し，根拠と理由のある対話」を行った。他者と交流することを通して，考えを深め，質疑・応答することで，自分の「根拠」「理由」が的確かどうか見直しをする活動を行った。

⑶　言語活動の特性

単元を貫く言語活動として「『高瀬舟』の登場人物の生き方を批評し，人生について考えを深めよう」を設定した。「批評」とは「対象とする物事や作品などについて，そのもののよさや特性，価値などについて，論じたり，評価したりすること」である。物語や小説を適切に批評するためには，文章を主観的に味わうだけでなく，客観的，分析的に読み深める力が求められる。そのためには，語句や描写などについて，その意味や効果を評価しながら読むことが大切である。

また，批評には説得力が求められる。客観的な根拠や理由を明示して自分の考えを論理的に表現することが必要になる。その際，自分の経験と結びつけながら，意見と根拠を述べていくことで，説得力は増すと思われる。

⑷　言語活動の工夫

本単元では，登場人物の言動と自分の経験とを結びつけながら読むことで，より深く登場人物の行動や場面の様子について想像を広げることをねらいとする。

第1次では，一読後「喜助」の弟殺しの罪について考えさせ，より正確な判断になるように学習事項について話し合い，考えさせる。学習事項を自分たちで考えさせるため，学習の見通しをもちやすくする。また，判断については，意見を「人殺し」か「人殺しでない」の2択にし，根拠や理由を深める話合いとなるようにした。

第2次では，「高瀬舟」の学習課題を解決するために，「高瀬舟での喜助の言動から考える喜助の人物像」「弟殺しについての喜助の告白から考える事件の全容」「庄兵衛が考える喜助の人物像」の3つの観点を読み取り，自分の経験と結びつけながら，判断していく。

第3次では，「高瀬舟」の読みを通して考えた登場人物の生き方から，自分の考えに影響を受けたことを文章にまとめさせたい。

5　単元における評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①「高瀬舟」を読んで，登場人物の考えや社会を評価し，自分の考えを深めようとしている。	②「高瀬舟」を読んで批評するために，場面や登場人物の設定の仕方を捉えて，文章全体の理解を深めている。 ③「高瀬舟」を読んで，文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し，人間，社会について自分の意見をもっている。	④「高瀬舟」が書かれた時代の言葉の意味や敬語の働きについての理解を，文章を読むことに役立てている。

6　到達目標問題

次の文章を読んで，あなたが自分の生き方について影響を受けたことを文章にまとめなさい。

テーマが類似した文章を読ませる。

①　舞台設定や文章の構造などを正確に述べている。

②　登場人物の生き方について，自分の経験や知識と関連させて述べている。

③　自分の日常生活の場面を具体例として挙げ、登場人物の生き方を比較させながら述べている。

7　単元の指導計画（全8時間）

過程	活動のねらい	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	・　人生について考えを深めるために，「高瀬舟」の登場人物の生き方について読んでいくことを確認する。 ・　あらすじを捉え１回目の判断をし，課題に対する意見をもたせる。	1　単元の学習目標を確認する。 2　作品の時代背景や文体の特徴に注意して通読し，一文あらすじを書く。 3　喜助の弟殺しの罪について，自分なりの判断を書く。	1	・「高瀬舟」を読み深めることで，これからの自分の生き方につなげていくことを確認させる。 ・　場面や登場人物の設定，行動や会話による心情把握，「語り」の構造などに注目させる。 ・　同心である庄兵衛が，罪人である喜助の言動や考えにふれることにより，人生についての考えが変化する話等のようにまとめさせる
	・　それぞれの読み取りから，必要な課題（学習事項）を話し合わせる。 ・　既習の言語活動を想起させ，課題を解決するための見通しを立てさせる。	4　互いの判断を読み，より正しい判断にするための，学習事項を話し合う。 5　課題の解決方法を考える。	1	・　根拠となる表現を挙げさせる。 ・　物語を正確に解釈するための学習事項を考えさせる。 （事件の全容・喜助の人物像・庄兵衛と喜助の関係）

展開	・「登場人物の生き方」を読み取るために，課題の解決に取り組ませる。	6　舞台設定や人物設定を捉え，人物相関図を作り，「喜助」の言動から「庄兵衛」は喜助に対してどのようなことを考えたか，自分の考えをまとめる。	1	・　第１・２段落を中心に舞台設定を確認し，人物相関図を作成させることで，庄兵衛の考える喜助の人物像から弟殺しの罪について考えさせる。
		7　高瀬舟での喜助の言動について，自分の考えをまとめる。	1	・　弟殺しについての喜助の告白から罪の全容について考えさせる。
		8　弟殺しについての喜助の告白から喜助のとった行動について，自分の考えをまとめる。	1	・　喜助の言動から，喜助の人物像について考えさせる。
		9　「喜助に対する判断を考える」という課題に，３つの視点から取り組む。	1	・「意見」「根拠」「理由」を意識してまとめさせる ・　グループで話し合いたい疑問も記録させる。
		10　グループで，喜助の弟殺しの罪について，判断をする。 11　それぞれのグループで考えた結論を発表する。 12　自分の考えを振り返る。	1 (本時)	・「根拠」「理由」との関係を意識して「意見」をまとめさせる。 ・　全員が発表しやすい雰囲気を作るために，結論に至るまでの，話合いの過程を発表することを　告げる。
終末	・　登場人物の生き方を批評することを通して，深まったり，再確認したりしたことを自分の生き方として書かせる。	13「高瀬舟」を読んで，自分の生き方に影響を受けたことを文章に書く。 14　振り返る。	1	・　前時の学習を想起させ，特に印象に残った登場人物の言動から，生き方について考えたことを文章に書かせる。 ・「高瀬舟」と生徒の日常生活との間にある共通点を考えさせる。 ・　作者や時代背景を読ませる。

8　本時の実際（7／8）

⑴　目標

「喜助」の弟殺しの罪に対して，自分の知識や経験と関連付けて判断をすることができる。

⑵　授業設計の工夫

ア　実生活と関連付けた単元設定の工夫　**研究の視点１**

中学３年生は，進路や自分の生き方について具体的に考えて，進路決定をしていくときである。文学的文章を読むことは，登場人物と自分を比較しながら，考えを深めたり，まとめたりすることができ，読書行為そのものが実生活を豊かにしていくものであることを実感させたい。

導入で，前時までに考えた弟殺しの罪について根拠をもとに発表する。グループでの話合いを通して，３つの観点を関連させた判断をする。課題を解決していく際に，自分の経験や知識を考えることにより，自分の考えを深めさせる。終末では，言語活動を通して，深まった自分の考えをまとめさせたい。

イ　言語能力を高め合う話合いによる学習活動の工夫　**研究の視点２**

学習活動の工夫として，「課題を解決する対話」を設定した。喜助の罪について，「人殺し」か「人殺しでない」の２択にし，根拠と理由を述べることにより，分析的な解釈と論理的な話合いになると考えた。また，グループで発表をする際に，結論に至るまでの過程を発表させることにより，グループ内での話合いに意欲的に参加したり，全員の意見を真剣に聞いたりする姿勢ができると考えた。

⑶　展開

過程	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点　◎評価　※授業設計の工夫
導入	1　前時の学習内容を想起する。 2　本文を音読する。 3　学習目標を確認し，学習の進め方を確認する。 喜助の弟殺し罪に対する判断をし，登場人物の生き方について感想を書く	5 一斉	○　電子黒板で前時までの学習を振り返らせ，本時の学習の目的を確認させる。 ○　学習目標を提示するとともに，学習の進め方を明確にさせる。 〔学習の進め方〕 ①　個人で考えた判断を伝え合う ②　グループで判断をし，発表する。 （結論に至る過程） ③　登場人物の生き方について，自分の考えをまとめる。
展開	4　グループで課題の解決に取り組む。 ⑴　前時までに行った学習で考えた内容を伝え合う。 ⑵　グループ内で意見を交流しながら，喜助の弟殺しの罪に対する判断をする。 ⑶　グループの判断を発表し，課題を解決する。 5　登場人物の生き方について，自分なりの考えをまとめ，発表する。	１０ グループ １２ グループ １５ 一斉 5 個	○　前時までに行った判断に根拠と理由を関連させて発表させ，グループで１つの判断にさせる。 ※　根拠と意見をつなぐ理由として自分の知識や経験を関連させて発表させる。 ◎　それぞれの意見を尊重しながら，根拠，理由について話し合い，一つの意見にまとめることができたか。 ○　お互いの判断の相違点について，話合いを行わせる ※　発表するときは，話合いの結論に至るまでの過程を発表させる。 ○　根拠，理由を関連させた判断になっているか検討させる。 ◎　本時の学習を通して，登場人物の生き方について自分の考えをまとめることができたか。
終末	6　次時の予告を聞く。	3 一斉	○　次時は登場人物の生き方から，日常生活の中での具体例を挙げ，自分の生き方について考えをまとめることを伝える。